

学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

心身ともに健康で、よく考えて判断する力と自主的に行動するたくましい実践力をもち誠実で思いやりがあり、豊かな心を持った児童の育成を目指す。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- ・素直で、思いやりのある子（やさしく）
- ・自ら考え、進んで学習する子（かしこく）
- ・健康で、ねばり強い子（たくましく）

2 学校経営の理念

子どもは未来からの留学生である。変化の激しい現代において、将来人間性豊かな社会の構成員の一人として、法と礼を重んじ知を生かし、健康でたくましく生きる自立した子どもの育成が学校の使命である。初等教育はその基礎を築く段階であり、子どもたちの個々の発達に応じて一人一人が確実に成長するように努めなければならない。

将来に夢をもち、自分の可能性を信じて主体的に学び活動する子どもを育成するには、子どもの成長への意欲を支え、子どものよさに目を向け伸ばしていこうとする前向きで元気な教職員と、保護者や地域の方々との信頼関係に基づいた連携・協力による子どもたちへの支援が必要であると考えます。

学校においては、教職員一人一人がそれぞれの持ち味や専門性を生かし主体的に学校経営に参画し、組織としての学校の機能が発揮できるように、全教職員同一歩調の下、具体目標の具現化に努めること。また、日々の教育活動をとおして、地域の中にしっかりと根ざし保護者から信頼されるように努めることが大切である。

3 学校経営の方針

(1) 豊かな人間性の育成（やさしく）

- ・児童一人一人が心のこもったあいさつができ、また、互いを認め合い生き生きとした生活が送れるようにするため「豊かな心育成全校運動」を推進する。

(2) 確かな学力の向上（かしこく）

- ・基礎・基本を重視し、確かな学力の定着を図るため「チャレンジ学習全校運動」を推進し、めあてに向かって全力で取り組む児童を育成する。

(3) 健康で安全な生活（たくましく）

- ・健康への意識向上を図るため「元気っ子活動全校運動」を推進する。

(4) 教職員の資質の向上

- ・使命感に徹し、協働体制のもと各自が特性を発揮し資質の向上を図る。

4 今年度の重点目標（地域学校園内で共通する重点目標は、文頭に○または該当箇所に下線）

（１）学校運営

- ・地域や中学校園との絆を深め、地域人材の支援を得て体験活動を重視し、来に向かって力強く頑張ろうとする意欲に満ちた児童を育成する。

（２）学習指導

- ・「わかる授業」を通して、基礎的・基本的な学力を定着させる。
- ・コミュニケーション力を育成するために、話し方・聴き方の指導、集団での学び合い活動を充実させる。
- ・言語力の基礎を育成するために、音読や読書活動を充実させる。

○家庭の協力も得、めあてに向かって自分から学習に取り組めるようにする。

（３）児童生徒指導

- ・思いやりと優しさを持って行動し、自他のよさを認め合い自己肯定感を高めると共に、自分の思いや気持ちを言葉で伝えられるようにする。

○いじめを絶対許さない態度を育てる。

○心のこもったあいさつができる児童を育成する。

- ・決まりを守る児童を育成する。

（４）健康（保健安全・食育）・体力

○食事のマナーを大切にしながら、好き嫌いなく食べる努力をする児童を児童を育てる。

- ・運動や健康に関心を持ち、自ら進んで健康力を高めていこうとする。

5 学習指導，児童生徒指導，健康（保健安全・食育）・体力に関する取組 ※ 下記項目参照

6 特色ある学校づくり等に関する取組

（１）育てたい資質・能力

- ①課題解決のために、地域の人・自然・文化に自ら関わり、見通しをもって、主体的に学ぼうとする態度を育てる。
- ②友達と協働し合う活動を体験し、互いのよさを認め合い強調し合う心や、地域の人々との触れ合いを通し、感謝の心・社会性（コミュニケーション）や豊かな心を培う。
- ③豊かな体験活動から得た知識や技能をもとに、積極的な表現力をもって、自分にできることを実践する態度を育てる。
- ④地域の理解を通し、地域に働きかけたり地域に貢献しようとしたりする意欲や身近な環境づくりを実践しようとする態度を育てる。

(2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」関連には文頭に◇）

○は平成 28 年度の最重点目標の指標となる活動

◇①学校・家庭・地域の連携により豊かな心を育てる活動を推進する。

【重点活動名】「豊かな心育成全校運動」

○あいさつ運動の奨励（自分から先にあいさつ） ・学級経営の充実 ・道徳教育の充実

○いじめを許さない態度の育成 ・出前授業による触れ合い学習の展開 ・正しい言葉遣いと豊かな表現力の育成 ・地区内工業団地との連携 ・学校・学年・学級通信による親への啓発

◇②基礎・基本的な学習内容の確実な定着と積極的な表現力の育成によって、生き生きと意欲的に頑張る子どもを育てる。

【重点活動名】「チャレンジ学習全校運動」

○ぐんぐんタイムの充実(漢字・計算・音読・視写) ・家庭学習の習慣化・漢字力、計算力検定(チャレンジテスト)の実施 ○豊かな言語力の育成 ○読書活動の充実(読み聞かせ月 1 回全クラスで) ・学習支援ボランティアの活用(体験的活動の充実)

◇③地域の支援や体験活動を重視し、たくましい心を育てると共に、自主的な運動を通して丈夫な体を育てる。

【重点活動名】「元気っ子活動全校運動」

○家庭と連携した生活習慣作り(早寝・早起き・朝ごはん) ・各種運動検定の実施

○食育(朝食、お弁当の日)との連携 ○給食指導の充実

・地震等の災害を想定した引き渡し訓練の実施

7 本市の重点施策・事業と関連する取組

(1) 「小中一貫教育・地域学校園」に関する取組

(宮っ子心の教育、宮・未来キャリア教育に係る取組を含む)

・全職員が 4 部会・10 分科会の中の 1 つに所属し、地域学校園の児童生徒の共通課題、重点的に取り組む内容、小中の指導を円滑に接続する方策等を協議し、必要に応じて共同の取組を実施していく。

・小中相互乗り入れ授業(国・算・英・実技教科) ・小 6 進学先中学校訪問

・心をはぐくむ教育活動推進事業の充実を図り、自然とのふれ合い活動、地域とのふれ合い活動、出前授業によるふれ合い学習を全学年で展開する。また、「みゆき学習スタンダード」との関連を図り、各プロジェクト毎に充実した活動を展開し、効果を上げるよう努める。

(2) 「地域とともにある学校づくり」に関する取組

・魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協力により、地区内工業団地企業との連携を図り、出前授業や見学・体験学習を積極的に取り入れ、社会性や職業観を育成する基盤づくりに努める。

学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 学習内容定着度調査などから

- ・国語・・・6年生の定着度調査から全ての項目で市の平均を下回った。特に「2段落構成で文章を書く」という設問の正答率が低かった。また、「読むこと」の中では「物語の内容を読み取る」「説明文の内容を読み取る」力が弱い。1年生から5年生についても漢字の読み書きについては概ね定着してきているが、登場人物や中心人物についての描写に着目しながら、教材文を読み取る力や段落相互の関係を押さえながら読んだり、要点を確認しながら読んだりすることが苦手である。
- ・社会・・・6年生で3観点ともに市の平均と同様かやや上回った。6年生では歴史に関する興味は高いが、産業や情報に関する知識や理解が低い。
- ・算数・・・数量関係以外の領域で市の平均を上回った。計算については前学年とも概ね定着してきているが、個人差が大きい傾向が見られる。また、数学的な考え方については全学年で低い傾向にある。
- ・理科・・・6年生では市の平均よりやや低かった。「観察・実験の技能」の観点が身に付いていない。しかし、3年生から5年生までにおいても理科に対する興味関心は高い。

(2) 学習と生活についてのアンケートなどから

「算数が好き」では、市平均を上回っている学年が多くなっている。「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」では、前学年で市平均を下回っている。しかし、「先生や友達の話最後まできちんと聞いている」は市平均を上回っている学年が多いことから、学習への興味・関心を高める工夫が必要と思われる。平日・休日ともにほとんど本を読まない割合がどの学年も約3割と高い。家庭との連携をさらに進めていく必要がある。

(3) 授業等への取組状況から

落ち着いた学習態度で授業に臨んでいる児童が多い。自分で考える→ペアやグループ→全体で話し合うといった言語活動の充実を図ることで、学び合いができるようになってきている。また、全校一斉の漢字・計算のチャレンジテストに向けて、自己達成目標を決め、根気強く学習に取り組む児童が増えている。今後も継続して基礎基本の力を伸ばしていく。

2 今年度の重点目標

- ・分かる授業に努め学習への関心・意欲を高めるとともに、漢字・計算・読解・音読・視写を中心に反復学習を徹底させ、基礎学力の習熟を図る。
- ・コミュニケーション力を育成するために、話し方・聞き方の指導、集団での学び合い活動を充実させる。

○・家庭と連携を図るため「みゆき学習スタンダード」の指導を強化し、保護者への周知を図る。

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆）

（１）☆基礎的・基本的な知識・技能の定着

- ・ぐんぐんタイム（火・木）と音読・視写の時間(水)を利用した漢字・計算・音読・視写・読解の反復学習を徹底する。
- ・漢字・計算チャレンジテストの実施と称賛活動（７・１１・２月）

（２）言語活動を通した集団での学び合い活動の充実

- ・失敗を恐れず安心して学び合う学級風土づくりを目指して、「話し方・聞き方」・「話し合いの仕方」の指導を充実させ、コミュニケーション力を高める。
- ・音読指導・発表指導を通して表現力を高める。

（３）主体的な学習態度の育成と家庭との連携

- ・みゆき学習スタンダードの指導強化

☆○基本的な学習態度や学習技能を身に付けさせるための指導強化月間の実施(6,11月)

☆○家庭学習の習慣化のための保護者会・学級だより等での保護者の理解と協力への働きかけをする。

（４）読書活動の推進

- ・週１回の図書室利用の時間を活用し、本を借りることの習慣化を図る。
- ・様々な本を楽しみ、活用できる児童を育てるために、読書まつりを中心に図書館行事の充実を図る。
- ・家読を推進し、読書への関心を高めるとともに豊かな心を培う。

（５）地域との連携・協力

☆「街の先生」などのボランティアや企業等による出前授業による学習支援の実施（通年）

児童生徒指導に関する取組

1 児童生徒指導上の主な実態

(1) 学習と生活についてのアンケート（前年度）などから

昨年度の重点目標に係わる質問「先生や友だちなどにあいさつをしていますか」、「ことばづかいに気をつけている」、「交通ルールを守っている」の回答では、上学年の肯定割合が、市の肯定割合を下回り、下学年の肯定割合は、市を上回った。上学年は、発達段階を考えると付和雷同的な行動が見られる年齢でもあるため、あいさつ、正しい言葉遣い、交通ルールの大切さを伝えていき、自ら進んで実行する姿勢を養う必要がある。

質問「だれに対しても、思いやりの心を持って接している」の回答では、1つの学年を除き、肯定割合が、市と同等またはそれを上回った。今年度も、いじめゼロ強調月間を起点とし、集会や標語作りなどを実施し、人を思いやる気持ちの育成にあたる。

(2) 問題行動等調査（前年度）から

いじめ

発生したいじめの件数は0であった。年4回いじめに関するアンケートを行ったが、そこには友達同士のトラブルなどの情報があがってきたが、その都度、学級担任および学年のスタッフで対応し、1つ1つ解消にあたった。また、学年間にまたがる問題に関しては、児童指導主任も介入し、問題解決にあたった。

不登校

不登校児童は3名で、その内訳は2学年1人、6学年2人であった。前年度と同じ人数である。また、他に長期欠席をしている児童も見られる。校内支援委員会を開いて方策を練り、保健室等の学校資源の活用や、外部機関への相談など行ってきたが、今後も丁寧な対応を継続していく。

暴力行為

発生件数は9件、その内訳は1件が対教師暴力で、8件が生徒間暴力である。下学年において、暴力行為が発生しており、自分の意にそぐわないとすぐ手を出してしまったり、物をなげてしまったりして、トラブルが起きていた。休み時間や授業中等、校長、副校長、教務、児童指導主任、養護教諭などが、廊下を巡回し、状況を見ながら指導にあたった。また、学級担任は保護者と連絡を取り合いながら協力を依頼し、校長は必要に応じて保護者との面談を行った。保護者の了承を得た上で1日のうち数時間、特別支援学級を活用し学習している児童もいる。

(3) 学校生活の状況から

複雑な家庭環境が背景にありながらも、明るく大らかな児童が多い。集会でも静かに話を聞くことができるなど、全体的に見れば落ち着いているように感じられる。しかし、他人の気持ちを考えずに言葉を発したり、行動したりすることで、トラブルが発生することも多く

特に昨年度から下学年においての暴力行為が見られるようになった。また、教員に対する暴言も数件あった。他者の気持ちを考え行動する力や、我慢をする力が身に付くよう指導にあたる必要がある。

2 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

○「相手を思いやる心を持ち、あいさつや正しい言葉遣いができる児童の育成
—家庭・地域との連携を深め、明るく優しい子を育てる—」

3 今年度の取組（「小中一貫教育・地域学校園」に関する取組は文頭に○、「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆）

（1）あいさつ・正しい言葉遣いの励行

- ☆○あいさつ強化月間の実施（親切委員会による校内放送での呼びかけを行う，生活目標をあいさつのめあてに1か月間固定し全職員で一貫した指導を行う）【6月・10月】
- ☆○全校集会おけるあいさつ指導の実施（保護者、来校者、登下校の安全を見守ってくださる地域の方などお世話になっている人には必ずあいさつをするよう言及する）
- ☆○親切委員会を中心とした朝のあいさつ運動の実施【毎週金曜日の朝】
- ☆○地域の方々と連携した全職員によるあいさつ運動の実施【毎月1回】
- ☆○各クラスであいさつの仕方についてのロールプレイングの実施【長期休業明け年3回】
- ☆○授業中における正しい言葉遣いの指導強化【通年】

（2）いじめを許さない態度の育成

- ☆いじめゼロ強化月間の実施:黄色リボンを配布する，休み時間の巡回をする【5月・9月】
- ☆いじめアンケートの実施【5月・7月・9月・11月】
- ☆企画委員会主体のいじめゼロ集会の実施【10月】
- ☆各クラスにおけるいじめに関するDVDを使用した授業の実施【9月】
- ☆いじめゼロ標語の作成および掲示【9月】

（3）望ましい集団作りによる思いやりの心の育成

- ☆道徳の時間における思いやりの心を育てる指導の充実【通年】と授業の公開【年1回】
- ・互いの良さを認め合える学級集団作りのための学級目標の活用【通年】
- ・縦割り班共遊（ふれあいタイム）の実施（6学年を中心に計画を立て，活動の内容やルールなどを話し合い楽しく活動する）【通年】
- ・縦割り班清掃の実施:班編成を年3回行い班ごとに清掃分担を決めて協力しながら活動
- ・クラスで遊ぶ時間「わくわくタイム」の設定【通年】
- ・Q-Uテストによる学級状況の把握と学級経営への活用【6月・11月】

（4）個に応じた指導の充実

- ☆教育相談週間の実施【6・11月】
- ・スクールカウンセラーの有効活用による児童の理解と対応【随時】

- ・児童に関する情報交換の実施（ブロックによるトーキングタイムを行う，年度始め配慮を要する児童について共通理解を図る）
- ・基本的生活習慣の育成と規範意識の醸成
- ・生活目標の設定【通年】

☆集団生活における規律ある行動の育成（特に「時間を守る」「人の話をしっかり聞く」ことの大切さを呼びかける）【通年】

☆「みゆきよい子の1日」の配布・教室掲示【4月】

○全校集会における正しい自転車の乗り方の指導【7月・12月・3月の長期休み前集会】

（5）家庭・地域・関係機関との連携

☆「魅力ある学校づくり地域協議会」「保護者会」における学校理解のための説明と協力依頼【随時】

- ・地域協議会との連携推進【年4回】
- ・学校だより・学年だより・学級だよりの発信および懇談会を通して家庭・地域との連携【通年】
- ・スタンダードダイアリーの活用による生活習慣の見直しと保護者との連携【随時】
- ・地域の高齢者との交流会などのボランティア活動の実施【年5回】

健康（保健安全・食育）・体力に関する取組

1 健康（保健安全・食育）・体力に関する主な実態

（１）定期健康診断・元気っ子健康体力チェックから

- ・体位は、ほとんどの学年が県と全国の平均を上回っている。う歯の罹患率は昨年に比べ、減少した。う歯５本以上を保有する児童に対し、個別指導や治療勧告をし、家庭との連携を図っている。
- ・本校の児童は、元気っ子健康体力チェック（８項目）の結果を宇都宮市や全国と比較すると、学年による差はあるものの、劣っている項目が多々あるということが分かる。特に男子は、「上体起こし・長座体前屈」以外の項目で、６学年中３学年以上が平均に至っていない。一方女子は、「上体起こし・長座体前屈・50m走・ソフトボール投げ」以外の項目で、６学年中３学年以上が平均に至っていない。この結果から、筋力・柔軟性について男女ともに宇都宮市や全国と比較しても、ほぼ同等であるといえる。そして、敏捷性や全身持久力、跳力について、課題があるということが分かる。

（２）元気っ子健康体力チェックのアンケート及び学習と生活についてのアンケートなどから

- ・運動頻度の選択肢別に、男女ともにほとんどの学年において、「ほとんど毎日週３日以上」「時々」運動を実施している児童は、体力チェックの合計点が高いという傾向がある。
- ・給食後の歯みがきはどの学年も習慣化されている。
- ・「朝食の有無」については、全学年共に、毎日食べるという児童が多い。一方で、全く食べないという児童については、中学年・高学年になると増加する傾向がある。

（３）授業や健康安全・体育的行事等への取組状況から

- ・体育の授業や体育的行事には、ほとんどの児童が意欲的に取り組んでいる。
- ・休み時間の外遊びを勧めるために、各クラスに様々な種類のボール（ドッジボール、ディンプルボール等）やドッジビー、長縄などを置いている。その結果、外で遊ぶ児童が増えてきた。

（４）一昨年度から、１２月に校内長縄跳び大会が実施され（クラス対抗にするのではなく、それぞれのクラスの最高記録を目指すという大会方針）、全学級の児童が参加した。八の字型、３分間、できるだけ多くの回数を跳ぶというルールは、どの児童も戸惑うことなく取り組むことにつながった。この大会をきっかけに、寒い時期にもかかわらず、外で活動する児童が増え、自ら体力向上に努めようとする児童が増えてきた。

- ・様々な方策（月１回の食育だよりの発行、お弁当の日の事前の計画と事後の振り返りの実施、栄養職員の学級訪問等）により、食育や健康に対する児童の意識の高揚を図ることができた。
- ・集団下校時に教職員が巡回をし、児童が安全に下校できるように努めた。

2 今年度の重点目標

- ・運動や健康に関心を持ち、自ら進んで健康力を高めていこうとする児童の育成。
- ・体育の授業において、子ども同士が学び合えるような授業が実践できるよう、教材研究を行い授業の進め方を工夫する。

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆）

（１）体力の向上

- ☆元気っ子健康体力チェックの結果を踏まえた補強運動の充実（通年）
- ☆水泳検定（鬼怒学校園共通）やなわとび検定の実施（７～９月，１２～２月）
 - ・昼休み・業間時における校庭の有効活用と，ボール等を充実させることによる運動の習慣化
 - ・各教科・特別活動における養護教諭と連携した保健に関する指導の実施（随時）
 - ・宇都宮マラソン大会参加への奨励
 - ・わくわくタイムの縦割り班遊び（通年）
 - ・長縄跳び大会の実施（１２月）

（２）食育の推進

- ☆給食指導における「食を大切にする心」の育成（栄養職員の栄養指導）（通年）
- ☆各教科・特別活動における学校栄養職員と連携した食に関する指導の実施（随時）
- ☆お弁当の日の実施（年２回）
 - ・全校児童の食への関心を高めるために，給食委員会による児童集会の実施（６月）
 - ・食育だよりによる食育の啓発（通年）
 - ・家庭訪問や懇談等を利用した家庭への啓発（４月，７月，９月，１２月，２月）
 - ・「食事マナーに関する手引き」を活用した給食指導（通年）

（３）家庭や関係機関との連携協力

- ☆元気っ子健康体力チェック結果の通知による健康・体力向上の啓発（随時）
- ☆保護者や地域との協力による登下校の安全確保（通年）
- ☆市役所と連携した子ども自転車免許事業や交通安全教室の実施（１０月）
- ☆スクールガードと連携した防犯訓練や避難訓練の実施（５月，７月，９月，１２月）
 - ・保健だよりによる健康の保持増進への啓発（通年）